【令和3 年度　コミュニティ・スクール太宰府西小学校　校長通信】　No.7

まほろばの丘から

令和３年８月３０日　　文責　校長 江口 尋信

子どもたちの「健康・安全を守ること」と「成長を図ること」

夏休みが終わり、２５日から学校が再開されました。子どもたちの変わらぬ笑顔に、みんなが元気でいてくれてよかったと思いました。一方、保護者の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大していること、児童生徒の感染が増加していることについて、大きな不安を感じておられることだろうと思います。改めて、子どもたちの健康・安全を守ることについての責任の重さを強く感じているところです。このような中ですが、学校は、毎日の学習や友だちとのかかわり等を通して、子どもたちの成長を図っていかなければなりません。これから大人となり、いきいきと生きていくための基盤づくりが小学校に課せられた役割です。

学校としても、可能な対策は講じていきますが、ご家庭や地域の皆様にもご協力をいただきたいと考えています。具体的には、子どもたちの健康状態や様子をしっかりと観察していただき、不安があれば小さなことでもお知らせいただければ助かります。学校と家庭、地域の三者が手を携え、この難局を乗り越えていきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いします。

子どもたちの自立を促す言葉

老子の格言で、『魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ』という言葉があります。　「人に**魚**を与えれば一日で食べてしまうが、**釣り方**を教えれば一生食べていける」という教えです。老子は、自立・自活する術（すべ）こそが、生きていく上で大切であるということを伝えています。

また、ドラマ「ドラゴン桜２」で、阿部寛演じる桜木先生は、東大に合格するための勉強方法や受験技術を指導しながら、「東大はただのスタートだ。誰かのためにとか認めてもらいたいとかではなく、自分のために東大に行け！」「一日一日を無駄に過ごすか、一日一秒にベストを尽くすかはお前次第だ！」ということを言っていました。桜木先生は、生徒に、自分がどうありたいかという一点を常に問うていたように思います。

２つの例を挙げましたが、子どもたちは中学校へ進学し、近いうちに進路選択を迎えます。その後も、様々な岐路に立ち、自分で人生を切り拓いていかなければなりません。そう考えると、子どもと接する上で、自分のことは自分でしたり（自立）、自分のことは自分で決めたり（自己決定）するよう促すことが、子どもたちにとっては貴重な経験となってきます。

ところが、これがなかなか難しいのです。早く解決したい、困らないようにしてあげたいという、わたしたち大人の気持ちばかりが先走り、「こうしなさい。」「こうしたらいいよ。」という指示・指導の声かけをしてしまいます。

元・千代田区立麹町中学校の校長である工藤勇一氏は、子どもたちが自分で自分のことを考え、決められるように、次の３つの言葉で生徒と接していたそうです。①どうしたの？（何か困ったことがあるの？）、②君はどうしたいの？（これからどうしようと思っているの？）③何を支援してほしいの？（何か支援できることはある？）この３つの言葉は、十分小学生にも通じます。①で自分の状態を言葉として表現させる。②でどうしたいのか自己決定させる。③で必要とする支援を聞き出す。わたしたち大人の役割は③の支援を行うことです。こういった日々のやり取りが子どもたちの自立・自己決定を促していきます。

学校では、こういった指導ができるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。ご家庭や地域でも、子どもたちの自立・自己決定を促す言葉かけを行っていただければ幸いです。